

東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10
東京労働会館6F

t e l 03-5395-3165 f a x 03-3946-6823

東京社保協

検索 

第33回日本高齢者大会 in 福島



央社保協、医療団体などの実行委員会主催で開催され、医師、看護師、介護士など2500人が集まりました。



タレントの室井佑月さんが「医療者は絶対にあきらめないことが大事。正しいのはこっち」とトークショーで参加者を激励、日本医師会、歯科医師会両会長をはじめ、立憲民主、共産、社民、れいわの各政党から連帯の挨拶やメッセージが寄せられました。

集会終了後、雨の中でしたが「給料増やせ」「戦争したい総理はいらない」と若い医療・介護従事者が、元気で明るいラップコールで通行人を惹きつけながら銀座をサウンドパレードしました。

臨時国会行動

10月16日、臨時国会初の定例会国会行動が行われました。1500人が集まり、各団体から「台風19号被災地支援」「安倍政権による改憲ストップ」「消費税増税やめよ」「1年単位の变形労働時間制導入ではなく教員増を」「公立・公的病院の統廃合計画撤回」などが訴えられました。

臨時国会・国会行動
・11月13日、27日(水)12時15分～13時
衆議院第2議員会館前

9月25～26日、磐梯熱海温泉（福島県）にて第33回日本高齢者大会が開催され、初日の全体会には2千人が参加しました。

全体会では、安齋立命館大学名誉教授が「原発事故から8年半！ふくしまの現実と原発ゼロへの道」と題して記念講演を行い、原発事故に対しては「事態を侮らず、過度に恐れず、理性的に向き合おう」と呼びかけました。また「原発事故被害者の国による全面救済と原発ゼロ基本法の早期制定を求めるアピール」を採択しました。夕食後には6つの分科会、2日目には、移動分科会と13の教室と分科会が開催され、参加者は大いに楽しみ学び論議しました。

三十余年前に高齢者大会で採択された「日本高齢者憲章」について、国連で「高齢者人権条約」を制定する動きが加速している中で、日本でも国内外の人権保障の発展を踏まえたバージョンアップが喫緊の課題であるとして、この大会での論議をスタートにしてゆこうと提起されました。

憲法いのち社会保障まもる国民集会

10月17日、日比谷野外音楽堂で憲法を守り生かした医療・介護・福祉の実現を求める集会在、中

各地域・団体の取り組み

中野社保協

「東京都シルバーパスの費用区分を増やして」の陳情が区議会で採択、都へ意見書提出へ



中野社保協が中野区議会に提出した陳情「東京都にシルバーパスの所得に応じた費用区分を増やすことを求める件について」が10月7日、区議会厚生委員会で全会一致により採択され、これを受けて厚生委員会の

全議員は10月16日、東京都宛の意見書を本議会に共同提案し、採択されました。

いろいろなバスや都営鉄道に乗る際、70歳以上が利用できる東京都シルバーパスの金額は、住民税非課税か前年所得が125万円以下の人は1,000円ですが、課税の人は20,510円と大きな差があります。

厚生委員会で中野社保協は「足腰が悪い人にとって1駅でも使えるのは利点だが2万円だと高く買えない」「5千円や8千円などの金額があったらいい」など区民の声を紹介し、2つの金額の間に利用しやすい金額の設定を求めました。

陳情書では、シルバーパスは外出による社会参加や健康効果・消費が増える効果、自動車利用機会の減少による環境負荷の軽減効果などがあること、中野区の南北方向の交通手段がバスに限られており、また、高齢ドライバーによる免許証返納の広がりに対して、高齢者が安心して生活するための特別の意味をもつことを強調しました。

議員提案の意見書では、シルバーパスの「制度の趣旨を達成するためにも、誰もが利用しやすい制度に改善するとともに、今後も持続可能な制度としていくことが求められ」と指摘しています。

現在、東京都はシルバーパス制度のあり方について、利用者と20歳以上の都民を対象とした実態調査を実施しており、今後まとまる調査結果が注目されています。

(中野社保協短信より)

府中社保協

9月19日、府中社保協は「第15回府中社保学校」を開催し、40名が参加しました。「聞こえのバリアフリー、加齢性難聴と補聴器に支援を」と題して日本共産党の池川都議が講演を行いました。

高齢者にとって難聴は身近な問題、難聴の放置は認知症の原因となることから、高額な補聴器に対する購入費補助や使用者にあうようにする補聴器の調整（フィッティング）が必要と強調されました。

都生連

「補聴器購入費への助成を」都知事に要請

10月4日、東京都生活と健康を守る会連合会の坂口会長をはじめ代表のみなさんが「高齢者への補聴器購入費用の助成を求める要請書」を5,292筆の署名とともに都知事宛に提出し、懇談しました。徳田知事秘書担当課長が対応し、署名を受け取るとともに、出された内容については、知事及び担当部局にしっかりと伝えていきたいと述べました。

参加者からは、「高齢者の安否確認で訪問しても、耳が遠くて出てこないことが多く確認がとれない」「高齢者の事故にもつながる」「署名に取り組み1カ月で沢山集まったことから高齢者の要求が強い」「補聴器の値段が高く、支出が家計的に大変なので補助を出して欲しい」「補聴器を使用するには調整



が大切だが、その専門家が少なく都として資格者を派遣したり、養成するなどして欲しい」「9区で補聴器に対する助成・給付を行っているが、都が上乗せ支援をして欲しい」「知事も聞こえのバリアフリー推進と明言している、都が率先してやって欲しい」などの要望意見が出されました。

介護をよくする東京の会

10月6日、介護をよくする東京の会は、介護学習交流集会を日本医療労働会館にて開催し、57名が参加しました。

第1部では、全日本民医連の林泰則事務局次長が「介護の現状と課題、次期制度見直しをめぐって」の講演を行い、社会保障制度が「縮小化、産業化、互助化」へと「改革」されてゆく中で、介護保険制度は「持続可能性」という御旗の下に保険財政を優先した給付抑制と負担増が繰り返され、今や介護保険からの「卒業」を目的とした自立支援型介護へと質的に転換したと分析。介護保険の生みの親と言われている元厚生省老健局長が「国家的詐欺になりつつある」と公言していることを示しながら、次期改悪を許さない闘いを強めるとともに、「真っ当な社会保障制度」へと再設計を求めていかなければならないと述べ、中央社保協では介護提言(仮)案を検討しており、今後、国民的な論議をしてゆかなければならない政策的課題であると問題提起しました。

第2部では、混合介護の実態、総合事業を行う事



業所やボランティアがない実態、「卒業」後の受け皿がない問題、低すぎる報酬を改善させた取り組み、認定審査の簡素化や委託化の問題、処遇改善の成果と課題、ヘルパーの高齢化や不足の実態など、豊島、世田谷、大田、稲城、文京、狛江、介護事業者、従事者、利用者の9名の方から報告・発言があり、交流することができました。

最後に、事務局から諸行動への参加や「ケアプラン有料化などの制度見直しの中止、介護保険の抜本的な改善を求める請願署名」、学習会の開催や自治体要請など取り組みの提起がされました。

参加者からは「介護保険制度20年の流れの中で政府がどの方向に向かっているのか整理されており、講演が解りやすく課題の整理ができた」「各自治体の状況が聞けて良かった」「参加者同士で繋がりを作りたかった」等の感想や要望が寄せられました。

東京の会では、年内に都内各自治体の総合事業の実態について調査を行う予定です。

「社会保障」をご購読ください



「資料と解説」が豊富で、激動する情勢や社会保障制度がよくわかる！役に立つ！学習や運動にぜひご購読を

- 定期購読（年6回）
3300円（定価+税・送料別）
1部550円（定価+税・送料別）
 - 申込みは東京社保協へ
TEL 03-5395-3165
FAX 03-3946-6823
- * ホームページからも注文できます

介護・認知症
電話相談

無料

いい介護の日

11月11日(月) 10~18時
☎ 0120-110-458

住民の願いにもとづく、
地域医療の充実を！

地域医療を守る運動全国交流集会

500円
(送料代)
11月23日(祝) 10~16時半
東京TFTビル9階906会議室
講演：地域医療を残すために
伊関友伸城西大教授
全体会：地域医療を守る運動交流

消費税廃止東京各界連絡会



10月21日昼、消費税廃止東京各界連絡会は、大塚駅北口で消費税増税後初となる定例の街頭宣伝署名を行い6団体14名が参加、45分の行動で「消費税廃止めざし、5%にもどせ」の新しい署名16筆、ティッシュ200個を配布しました。

「社会保障のために消費税を上げるべき」という高齢女性もいましたが、乳母車を押した若いお父さんは「まだ、増税の実感はないけど、徐々に買うのを我慢しないとならないだろう、消費税を下げて欲しい」と、夫婦で通りかかった高齢男性は「もう買物はない事にした」と言いながら署名で意思表示をしていました。

消費税廃止東京各界連絡会・学習会

12月17日(火)18時半～
けんせつプラザ東京

学習講演

(仮題)消費税本来の使い方はどうあるべきか

巣鴨地蔵通り「4の日」

10月14日体育の日、11時から先月に続いて巣鴨地蔵通り商店街入口にて「4の日」宣伝行動を行いました。雨模様のため傘をさしながらの通常より30分短い行動にはなりましたが、37名が参加、25条署名はがき入りのティッシュ約3,500個を配布しながら署名を訴え、署名65筆が寄せられました。

また、台風被害への支援募金も行い、数千円が寄せられました。同時に「(社会保障充実にむけて)私の代わりにやってくれてありがとう」と募金を入れる方もおられました。



「4の日」定例宣伝行動

巣鴨駅

・11月14日(木)12時～13時
巣鴨地蔵通り商店街入口

・12月14日(土)11時～13時

主催:東京社保協・中央社保協

社会保障運動交流集会

12月4日(水)17時半～20時(予定)

衆議院第1議員会館大会議室

●学習講演:芝田立教大教授

(仮題)全世代型社会保障のねらいと安倍社会保障解体攻撃

●意見交流

主催:中央社保協

東京社保学校

11月10日(日)10～16時半

けんせつプラザ東京

資料代:500円 参加申し込みを!

第1講義

「2020年代の社会保障改革の行方と課題」

芝田 英昭 氏 (立教大教授)

第2講義

「権利性が明確な『生活保障法』に」

林 治 氏 (弁護士)

第3講義

「都民によりそう明日の都立病院へ」

氏家 祥夫 氏 (都立病院の充実を求め
る連絡会代表)

主催:東京社保協